

平成25年度 グループホーム“あっと”事業実績報告書

事業主体 社会福祉法人 京都ワークハウス
代表者 理事長 西村 清忠
事業名称 共同生活援助・共同生活介護
事業所名称 あっと

定員 女性 4名

入居者 女性 4名（～8月） 3名（～9月） 平均年齢 37歳

（1）実践面

■入居者の状況

昨年8月に、4名から1名退去し、上京ワークハウス利用者の3名となる。今年2月に上京ワークハウスに女性の入所があり、ホームを希望、体験入居を実施し、3月入居し、4名となる。「あっと」での生活で、居室の整理や洗濯などを自らしたり、食事の準備やゴミだしなど共同の生活の中で自然に役割を持ちながら、「あっと」が安心と安らぎの場としてみんなで積み上げてきている。一方で、「料理がしたい」「もっとごはんの量が食べたい」「Aちゃんのテレビの音が大きい」「すぐ怒らるはる」などの声があがったり、食事内容、入浴・排泄、身だしなみ、居室の環境等、より改善し、人の特性に合わせて支援の工夫を世話人・生活支援員の中で深めていく必要がある。

■世話人・生活支援員体制

世話人会議は4月 7月 10月土曜日の午前半日、3回実施。

9月に実地指導で、夜間支援体制の明確化（個別支援計画に反映）、世話人・生活支援員の配置基準について指導があり、居室清掃や利用者への支援をあつくした。しかし、生活支援員が上京ワークハウスの支援員と兼務であることから、定期的に入る事が難しい。

体制の確立、会議の定例化とともに、世話人・支援員の業務の割り振りなど支援業務の見直しが求められる。

（2）運営面・実務面

●設備面 小型スプリンクラーの設置（各居室と居間、台所 計6箇所）

●運営面 年2回の避難訓練の実施
日誌の日々の点検、情報提供 金銭管理の工夫

●請求面での問題点

請求の根拠を記録として必ず残しておく。日誌の記録様式の改善
世話人給与 利用者請求書の様式の改善